

奥州藤原氏の支配形態は、「平泉」一極集中ではない。第二の拠点「比爪」が存在する。比爪は平泉に匹敵する権力中枢なのか、その勢力範囲は北方にどこまで広がるのか。考古学資料を中心に、その実像を紹介します。

— 岩手県立博物館テーマ展(3月15日～5月11日)比爪 もう一つの平泉 パンフレットから —

## 《《《 3～4月行事予定のお知らせ 》》》

3月19日 (水曜日)	第50回月例懇話会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：金濱 興一 テーマ：「志賀理和気神社について」 発表者：山崎 純醒 テーマ：「泰衡の首の真偽 —まつわる謎を検証する—」
3月23日 (日曜日)	県立博物館日曜講座受講 テーマ展展示解説会参加 講座講師 八重樫 忠郎氏 《紫波町観光交流協会主催》	演題「俺の平泉 —比爪を斬る—」 午後0時20分 赤石公民館出発 6時頃帰着予定 往復 貸切バス使用 参加料2,000円程度(未定) お問い合わせは 090-3125-3776 (高橋)まで
4月13日 (日曜日)	平成26年度定期総会	午前10時から11時まで 赤石公民館
	県立博物館日曜講座受講 テーマ展展示解説会参加 講座講師 羽柴直人氏	演題「比爪 —もう一つの平泉—」 午後0時20分 赤石公民館出発 6時頃帰着予定 ※ 詳細は次号でお知らせします。 お問い合わせは 090-3125-3776 (高橋)まで
4月16日 (水曜日)	第51回月例懇話会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：中野 宏 テーマ：(未定) 発表者：高橋 敬明 テーマ：(未定)

### ☆☆☆ 紫波町指定史跡 樋爪館跡の道案内人活動 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

赤石地区の多くの皆さんが、樋爪氏・樋爪館の歴史を知り、郷土に誇りをもつようになるのが、私たちの願いの一つです。このため、昨年度から会員のボランティア活動として、遺跡の道案内人活動に取り組んできました。

厳しい寒さが続いています。春が待ち遠しい思いは皆さん同じです。今のうちから、お友達や、ご近所の方々と樋爪館遺跡めぐりなどの計画を話し合ってははどうでしょうか。また、新年度の子供会や老人クラブの活動計画に、取り入れていただくのも良い方法だと思います。

- Aコース 所要時間約3時間 日詰駅発着 五郎沼一周・樋爪館関連遺跡めぐり
- Bコース 所要時間約2時間 赤石小学校発着 樋爪館関連遺跡めぐり
- Cコース 所要時間約1時間 五郎沼発着 五郎沼一周遺跡めぐり

※ 標準コース以外に、グループの年齢や目的に合わせた、ご希望の内容を検討しますので、遠慮なく下記にご相談ください。

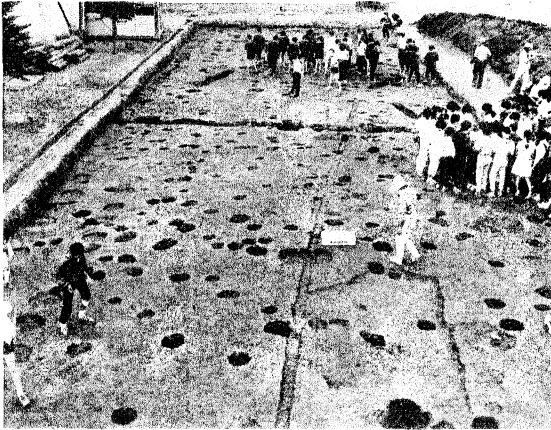
019-676-3999 (赤石公民館内 赤石地区ひづめ館懇話会事務局)  
080-1836-6046 (副会長・道案内人部会長 佐藤雄一)

【第8次発掘調査】

比爪館跡 調査説明資料(第8次～第10次) <紫波町教育委員会(平成2年3月31日発行)> から  
比爪館 第8次・19～22次発掘調査概報 <紫波町教育委員会(平成16年3月31日発行)>

※ 発掘調査報告書として発行されたものは見当たらない。

第8次調査児童見学風景



奥州藤原氏の時代この付近は、藤原氏の一族である比爪氏の支配するところであった。鎌倉幕府の記録『吾妻鏡』によると、比爪氏の居館は志波郡にあったとされている。

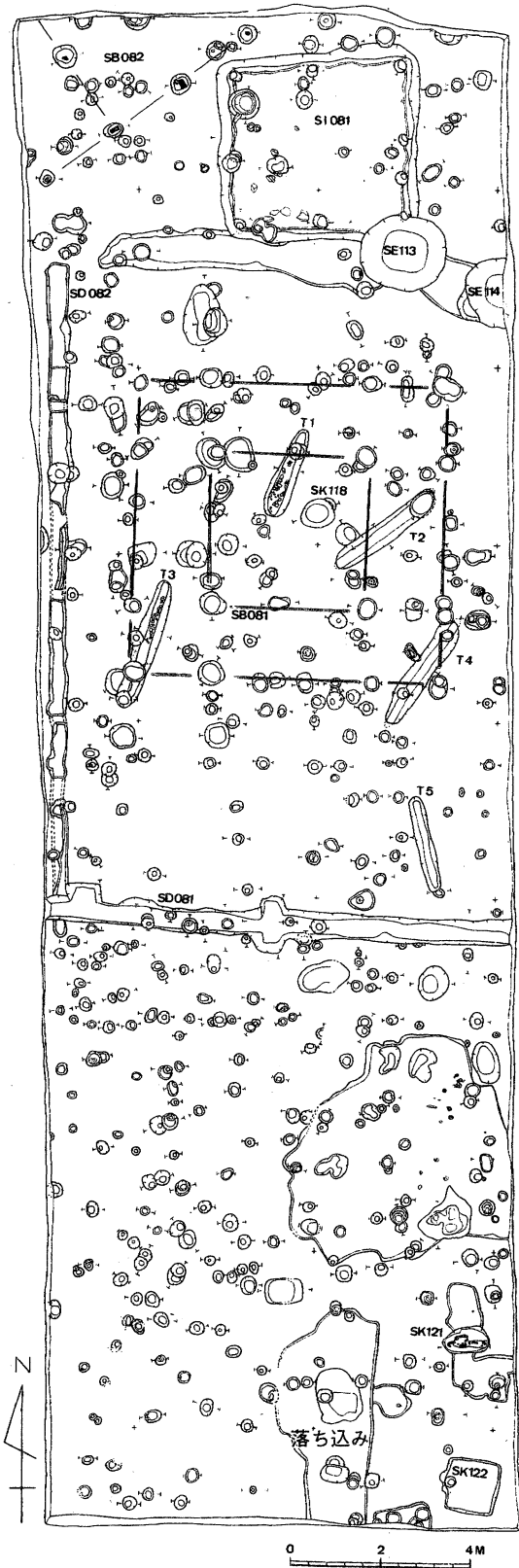
場所は、城山と南日詰の2説があったが、南日詰の調査を進めるにつれて発見された建物跡や出土した土器は、平泉の遺跡と類似するものが多く、同時期の比爪館跡である可能性がますます強まっている。

赤石小学校が、現在の場所に建設されたのは明治42年にさかのぼる。その後数度の校地拡張と校舎改築を経て現在に至っている。当時は遺跡内であることはあまり重要視されず、昭和40年になってはじめて発掘調査が行われた。

現在は文化財保護法(昭和25年)により、遺跡内の開発は調査が義務づけられている。今回の調査も遺跡内の校舎新築工事のため、記録保存しその成果を活用するために発掘調査を行ったものである。



第2図 比爪館跡調査区域図



第3図 第8次調査区遺構配置図 (S=1/160)